

石川哲先生を偲んで

日本臨床環境医学会顧問 (東北大学名誉教授)

吉野 博

石川哲先生と初めてご一緒したのは、シックハウス防除に関連した日本建築学会の研究委員会 (室内化学物質空気汚染調査研究委員会) だったと記憶しています。これは1998年に設立されましたが、その関連で2000年から仙台でシックハウス研究会と称してシックハウスと居住者の健康に関する詳細な調査を実施するための活動を開始しました。その時には、石川先生の他、北條祥子先生 (尚絅学院大学名誉教授)、野崎淳夫先生 (東北文化学園大学大学院教授)、角田和彦先生 (かくたこども&アレルギークリニック院長) らが参加されました。

その研究会では、シックハウスと疑われる住宅を対象として室内化学物質濃度、換気量、温湿度の測定を実施するとともに居住者の健康診断やアンケート調査などを行いました。住宅の数は62件で、測定は2007年まで続きました。研究会は年に数回、東北大学で開催されましたが、その度ごとに石川先生は東京から参加してくださいました。研究会では活発な議論が交わされましたが、大学院生の研究発表に対して、石川先生は特に熱心に聞いてくださり、適切なアドバイスをしていただくと共に学生の励みになる言葉をかけてくださいました。そのお陰で学生たちは研究を深めることができたのではないかと思います。

研究会の終了後は、その日のうちに帰京されましたが、その直前に仙台駅ビルの居酒屋で一杯飲むことが慣例となりました。時には北條先生もご一緒でしたが、シックハウス研究の進め方、研究会のあり方、国際会議の情報など様々なこととお話することができました。石川先生の研究にける思いをお聞きし、また幅の広い見識にも触れることができ、楽しい時間を過ごしたことを思い出します。

以上のような長期に亘る綿密な調査研究によって多くの成果が得られましたが、それに基づいて石川先生のご尽力によって二つの出版物を刊行することができました。一つは、石川先生とご一緒に編著者となり、東北大学出版会から2011年2月に刊行しました「シックハウス症候群を防ぐには一長期に亘る実態調査をふまえて―」です。もう一つは、柳沢幸雄先生 (東京大学名誉教授)、石川先生、宮田幹夫先生 (そよ風クリニック院長) らとの共著で CRC Press から2017年1月に刊行しました“Chemical Sensitivity and Sick-Building Syndrome”です。後者に関しては出版までに数年かかりましたが、その関連で、田園調布の先生のご自宅にお邪魔して打ち合わせをしたことを覚えています。これらの本の出版を通して、先生のシックハウス研究に対する強い思いを感じることができました。

また、日本臨床環境医学会の第15回学術集会 (2006年) を仙台で開催するよう依頼されましたが、その際のことです。どんなテーマがよろしいでしょうかと石川先生に相談したところ、直ぐに、「都市・建築工学と臨床環境医学のホライズン」ではどうかというお話があり、大変びっくりしました。素晴らしいご提案だったので、そのまま学術集会のテーマとしました。工学系からの会長は初めてだったこともあり、建築分野から多くの入会者があり、大会の発表論文数も多く、成功したのではないかと思います。これも石川先生のお蔭だと思います。

数々の思い出がある石川哲先生ですが、お亡くなりになられ誠に残念です。先生の研究に対する真摯な態度を引き継いでいきたいと思ひます。先生のご冥福を心からお祈りします。